

ふるさと西淀川PR大使 就任記念対談

シンガーソングライター

庄野真代さん

西淀川区長

中島 政人

10月13日に「ふるさと西淀川PR大使」となった
庄野真代さんと中島区長が対談!!



「ふるさと」西淀川

区長: お越しいただきありがとうございます。また、「ふるさと西淀川PR大使」にご就任いただき、非常に感激しております。

庄野: こんな形でふるさとに来れるのは、幸せです。

区長: 西淀川区はどんなまちでした?

庄野: どこでも遊び場になるような、空き地や路地などがあり、遠回りするとちょっと違う風景や人がいて、一人一人を全体で包んでくれたようなまちですね。

区長: 先日、あるテレビの取材で「西淀川区の自慢はなんですか?」と言われ、「人情」と答えました。

庄野: 間違っていないですね、私の記憶。

小・中学校での出会い

区長: プロフィールを拝見すると、とても精力的な方とお見受けします。

庄野: おとなしく黙って空想ばかりしている子でしたが、小学5年のときに担任の先生があれもこれもできるよ、と励ましてくださったんです。育てた朝顔を区役所に飾っていただいたり、本当に先生には感謝しています。その後中学1年になってすぐの音楽の授業で、先生が「一緒に音楽の楽しさを味わっていこう」、「好きな歌を、好きな音の高さ、速さで歌いなさい」とおっしゃったんです。その時、音楽は自分の中から湧



庄野 真代 (しょうの まよ)

●昭和29年／野里生まれ(野里小学校・歌島中学校卒業) ●昭和51年／フォーク音楽祭をきっかけに、日本コロムビアからデビュー。 ●昭和53年／「飛んでイスタンブール」、「モンテカルロで乾杯」などが大ヒット。ニューミュージックを代表とするシンガーとして活躍するほか、作曲、執筆、舞台演劇など多方面で活動。今年(令和3年)にデビュー45周年を迎える。法政大学人間環境学部兼任講師

き上がってくるものをそのまま形にすればいいと気づきました。

区長: 本当に良い先生にめぐりあわれました。先生がお聞きになったら、喜ばれると思いますよ。

音楽と旅

区長: 1978年、私が高校生のときに「飛んでイスタンブール」がリリースされましたが、あの歌でイスタンブールを知りました。

庄野: 「イスタンブールってどこだろう?」と思う時に、想いがリュックを背負って歩き出しています。歌や音楽は人が何かの行動を起こすためのきっかけになるのかなと思いました。

区長: その次が「モンテカルロで乾杯」。続けてヒットされた中で世界一周の旅に行かれるのはすごいと思いました。旅行されて人生観などは変わりましたか?

庄野: こんな考え方もあるんだとか、受け入れる範囲や門戸が広がった気がします。

コロナ禍のもとで

庄野: 区長に就任なさってからコロナ禍の対応で大変ではなかったですか?

区長: そうですね、ただ(コロナ禍でない)通常期がわかってないです。私は3月まで民間企業に在りまして、行政は大変だろうと言われる方もいますが、どこでも大変な思いをされていますから。

庄野: この時期をどう過ごすかで、収束した後に変わってくると思うんで、一生懸命力を貯めています。実際に動く仕事はゼロになった反面、時間ができたので夏に「66」という新しいアルバムを出しました。

区長: 「age(年齢)」と、「(アメリカの)国道66号線」の2つの意味をかけておられるんですね。

庄野: 新しいCDを作らなきゃ、どんな曲にしようかと悩んでいましたが、「ありのままでもいいんだ、今の自分を出せばいい」と思ったら気が楽になりました。そして「66っていうアルバム作りに参加しない?」と同じ年代の人達に声をかけたら、総勢29人が集まりました。

区長: 「ドキドキしてるかい 愛すべき人生」という歌詞が大好きです。

庄野: 嬉しいです。

区長: 人生でドキドキすること、大切ですよ。

子ども食堂

区長: 子ども食堂(「しもきたキッチン」)もなさっているんですね。

庄野: 今まで国内外問わず、様々な活動をやっていたんですけども、もっと大事な自分の住む地域のことについて、きちんとしなきゃいけないとっていて、

ちょうど4年ぐらい前からテスト的にはじめて、3年前からちゃんとした食堂にしました。

区長: 今、運営されている中で大きな問題と思われることはありますか?

庄野:それほど問題と思うことはありません。食育も兼ねていて、いただいたカボチャを「今日カボチャもったよ、みんなで何しよう?」とか、みんなで作って食べていますので、とても楽しい。中には不登校や発達障害で集団になじめない子ども達があり、そういった子どもが学校でもない、家でもないもう一つの居場所として来てくれます。いきいきと。小さい集団の中で遊びながら、残しちゃいけない、自分がそれなりにルールを作っておく必要があります。

バイタリティ(活力)

区長: 庄野さんは音楽のほか、1〜2年旅行され、大学に入られた。それからボランティア、子ども食堂と、すごいバイタリティですね。

庄野: 皆さんと同じだと思いますよ。私は人と会うことがとてもいい仕事です。会った人から何か力をもらえていると思うんです。ライブやコンサートで歌っているとき、こちらがエネルギーを出していますが、客席でキャッチした人が(それを)投げ返してくれる気がします。そんな気持ちやエネルギーのやりとりが活力になっていると思います。

区長: 私は区長に就任して「活気があり、笑顔にあふれ、常に進化するまち」を、テーマとして掲げました。住みたい、住み続けたい、あるいはここで事業をしたい、事業し続けたい、「ここでいい」ではなく「ここがいい」という選ばれる地域にしたいと思っています。また、音楽や美術など芸術の力も借りて、まちをもっと活性化したいと思うようになりました。

庄野: 芸術・文化は心に潤いを与えるものですし、潤いの与えられた心で、次の発展的なことが考えられるようになると思います。今はご高齢の方でもすぐお元気なので、そういう方達も、芸術や文化をもっとやられるといいですし、習い事もそうですよね。

区長: 例えば手芸やダンスなど、いろいろなことをなさっています。今はコロナ禍でちょっとやりにくいところがありますが、これを機会に、今後ともよろしく願います。今日はどうも有難うございました。

庄野: どうも有難うございました。



☎ 総務課(総合企画) 5階52番 ☎6478-9683

